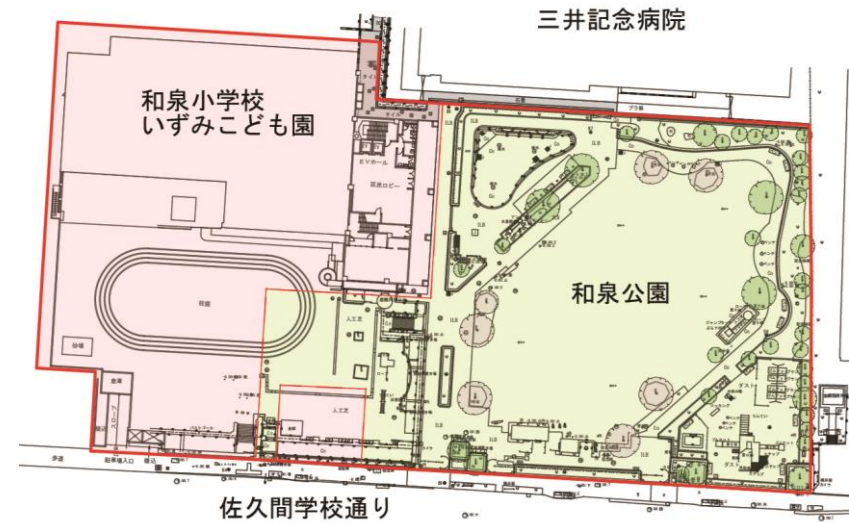


1. 基本計画策定の背景・目的

- ・老朽化等の課題がある和泉小学校・いずみこども園等施設（ちよだパークサイドプラザ・いずみこどもプラザ含む）は、児童・園児への負担軽減を図る観点等から、現敷地建て替えではなく、隣接する区立和泉公園敷地への移転建て替えに向けて検討を推進
- ・令和元年度から施設関係者との意見交換を重ね、令和6年度からは公園の視点を検討に加え、地域の意見を踏まえ、令和8年2月に新たな公園と学校等施設の一体的整備構想を策定
- ・整備までの一貫性のある方針と設計の与条件となる事項を提示するために本基本計画を策定

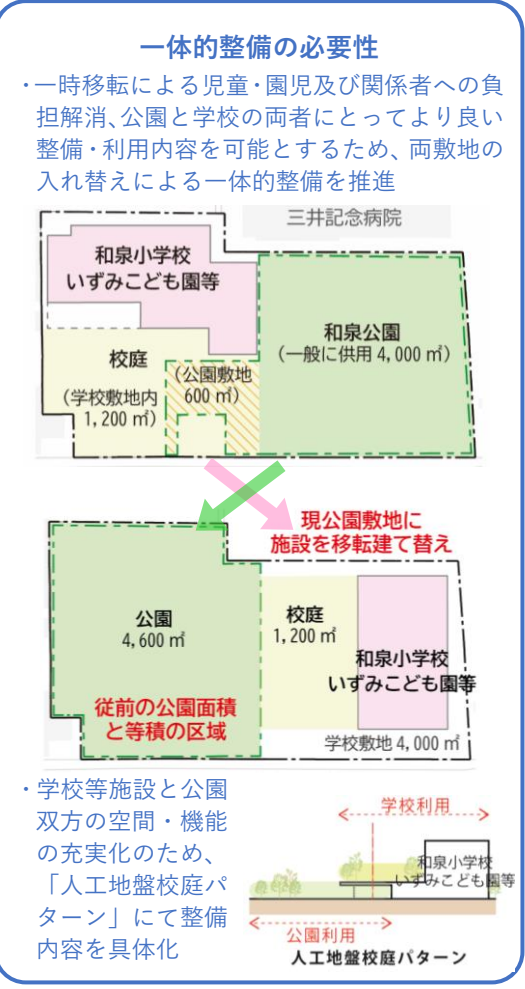
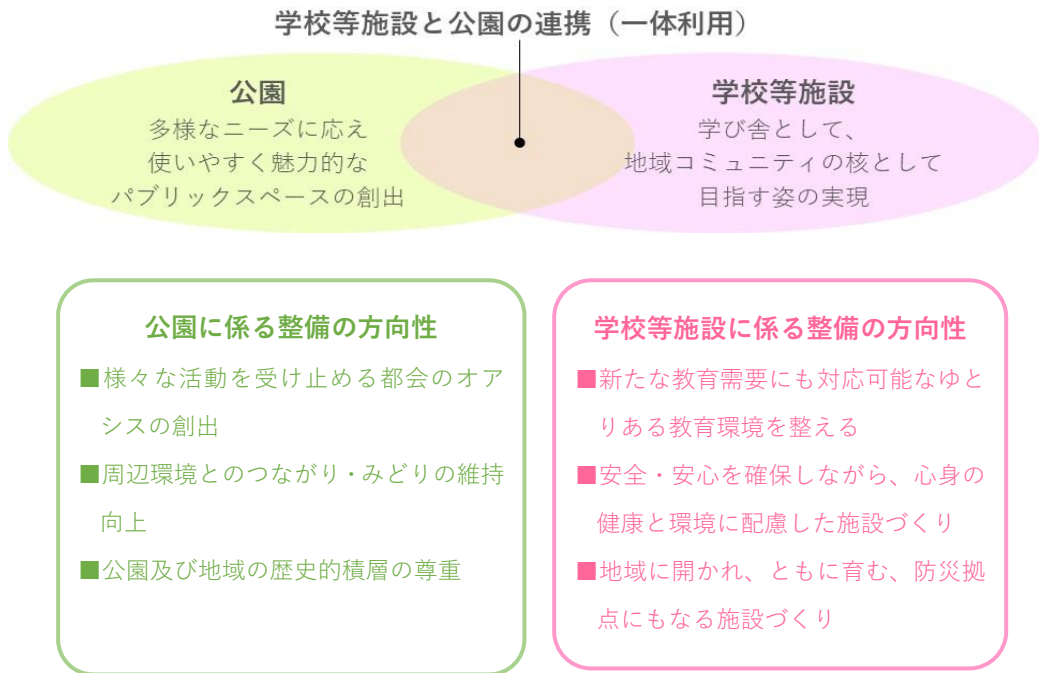


計画地の概要

項目	和泉小学校・いずみこども園等施設 (ちよだパークサイドプラザ・いずみこどもプラザ含む)	和泉公園（都市計画公園、街区公園）
敷地面積等	3,963.06㎡ うち校庭面積：約1,200㎡ 園庭面積：約200㎡	4,607.71㎡ 但し、その一部（約600㎡）は校庭としても使えるよう整備され、学校の教育活動がある日に校庭として使われているため、実際に公園としていつでも有効に利用できる範囲は約4,000㎡

2. 整備の方向性

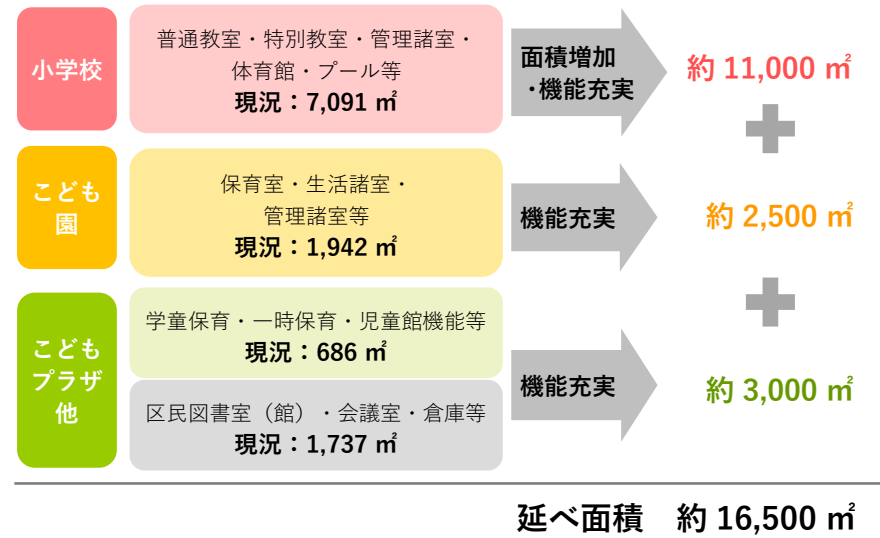
限られた敷地における必要規模への対応、都心至近の立地における学び舎・地域コミュニティの核として求められる機能の確保、地域の住民・関係者のニーズに応えるパブリックスペースの創出を目指す



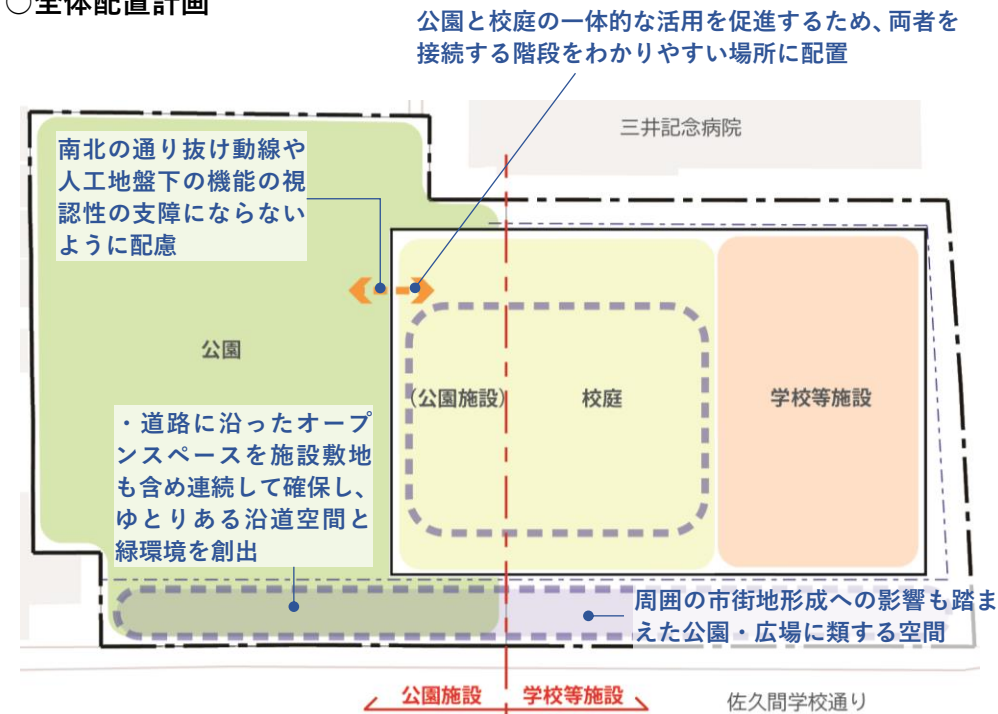
3. 整備の前提条件と配置計画

○想定する施設規模

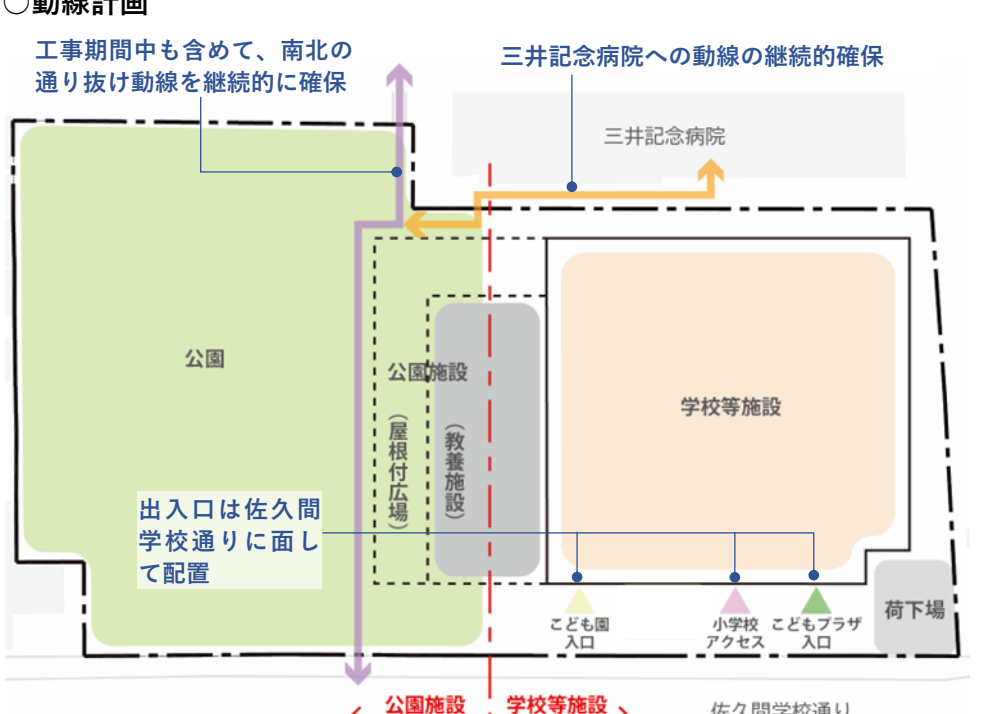
- ・就学前人口の推移や新たな教育需要にも対応すべく、小学校・こども園・こどもプラザの3つの機能を拡充するとともに、地域利用・公園施設機能も加え、施設規模約16,500㎡と想定



○全体配置計画



○動線計画



4. 学校等施設の基本計画

○学校等施設の導入機能と諸室のあり方

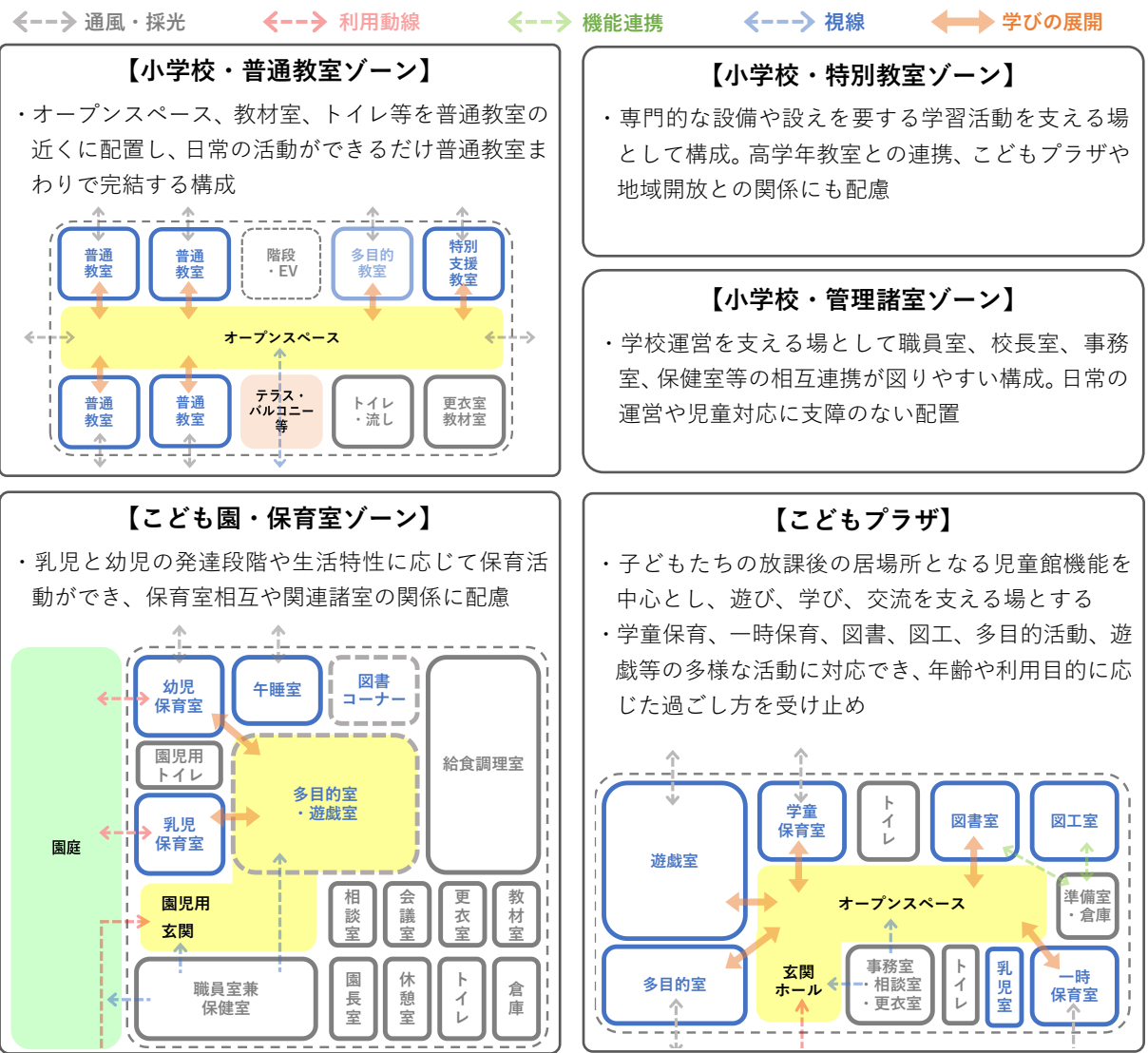
区分	導入機能
和泉小学校	・教育・学習支援機能 ・活動・生活支援機能 ・管理・運営機能 ・防災機能 等
いずみこども園	・保育機能 ・管理・運営機能 等
いずみこどもプラザ	・放課後児童支援機能 ・多世代交流機能 ・子育て支援機能 等
共通施設・地域利用	・地域利用機能 等

安全・安心な施設計画

- ・構造成能の確保
- ・防災性能の確保
- ・地域開放と安全対策の考え方
- ・子どもの活動に配慮した工事工程
- ・将来の変化に対応できる施設構成

設備計画

- ・ZEB Ready 等への対応
- ・長寿命で耐久性の高い設備計画
- ・感染症予防対策への対応
- ・防災性・機能維持性に配慮した設備計画



5. 和泉公園の基本計画

○和泉公園の導入機能

導入機能
・公園機能 自然環境機能、憩い機能、防災機能といった基本的機能に加え、歴史資源機能、シンボル機能、コミュニティ形成機能、運動・遊び場機能、先駆的活用機能を有する「地域の中心」となる公園
・地域住民・公園利用者の利便性を向上させる機能 人工地盤の下部空間を公園施設（教養施設、屋根付広場等）として整備し、立体的に利用し地域住民・公園利用者の利便性を向上させる機能を導入

・公園の整備内容については、公園整備時期に合わせ、これまでのご意見、整備の方向性、現状の機能等を踏まえ検討

6. 整備の推進に向けて

○事業手法

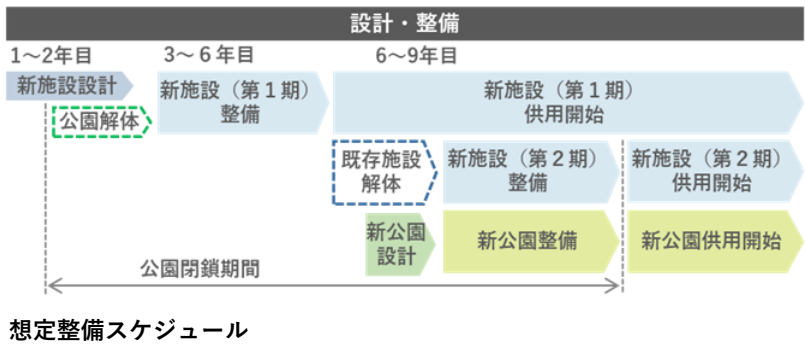
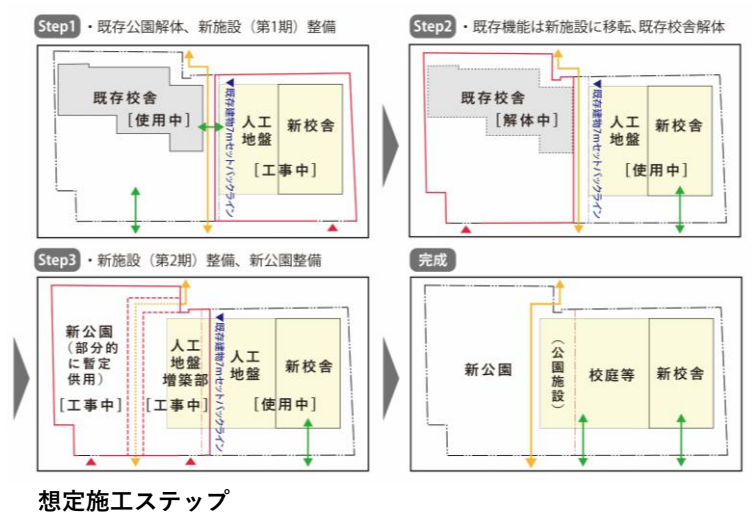
・公直接建設方式、ECI 方式等があり、施設整備の水準や事業コスト、期間等の観点から比較検討を行い、最適な手法を基本設計段階で整理

○想定事業費

・昨今の物価上昇や労務単価の上昇、また複雑な仮設計画や施工計画になることなどをふまえ、設計段階で建設条件を整理したうえで算定

○基本計画策定以降のスケジュール

- ・基本計画策定以降は、設計、各整備（新施設（第1期・第2期）、新公園）を推進。事業進捗を踏まえ、基本設計に向けて引き続き地域住民等と意見交換を行い、検討に反映
- ・整備の段階に応じて周囲への情報提供を実施



○工事期間中の対応

- ・工事期間中の和泉公園機能の代替として、和泉小学校の校庭（未使用時間帯の開放）に加え、旧和泉町ポンプ所跡地・佐久間公園・いずみ児童遊園、秋葉原公園等の有効活用を検討



和泉公園の代替機能対応（基盤地図情報（国土地理院）を加工して作成）